

感染症学（感染制御学分野）

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	3 人	(3 人)
研究生	2 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	8 人	

2 教員の異動状況

堀井 俊伸（教授）（H24.3.1～現職）

瀬戸 真太郎（助教）（H18.4.1～19.3.31 助手；H19.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 瀬戸真太郎, 永田 年, 堀井俊伸, 小出幸夫: 結核菌ファゴソームの分子解剖. 日本細菌学雑誌69: 513-525, 2014.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 堀井俊伸: 医療関連感染と制御. 日本防菌防黴学会誌 42: 451-464, 2014.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 堀井俊伸 (分担執筆): 第3章 I 結核対策, 病院感染対策ガイドライン改訂第2版. 国公立大学附属病院感染対策協議会編. じほう, 東京, pp.47-67, 2015.

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (130 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)

(6) 奨学寄附金その他（民間より）	8 件	(190 万円)
--------------------	-----	----------

(1) 文部科学省科学研究費

瀬戸真太郎（代表者）：科学研究費基盤研究（C）、リポ多糖誘導性オートファジーを制御する小胞輸送機構の解析、130万円（新規）

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	2 件
(3) 学会座長回数	0 件	4 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	3 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

1. 瀬戸真太郎、小出幸夫：結核の新規病原因子の解明．第 90 回日本結核病学会総会．2015 年 3 月、長崎．

2. 瀬戸真太郎、小出幸夫：Host-Pathogen Interaction の観点から考え得る新しい治療法．第 90 回日本結核病学会総会．2015 年 3 月、長崎．

4) 座長をした学会名

1. 堀井俊伸：第 88 回日本感染症学会総会・学術講演会・第 62 回日本化学療法学会総会

2. 堀井俊伸：第 63 回日本感染症学会東日本地方会総会学術集会

3. 堀井俊伸：第 26 回日本臨床微生物学会総会・学術集会

4. 堀井俊伸：第 30 回日本環境感染学会総会・学術集会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 堀井俊伸：日本感染症学会（評議員）

2. 堀井俊伸：日本環境感染学会（評議員）

3. 堀井俊伸：日本臨床微生物学会（評議員）

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

- 堀井俊伸：Journal of Infection and Chemotherapy、編集委員、PubMed/Medline 登録有、インパクトファクター有

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 堀井俊伸：Journal of Infection and Chemotherapy (Japan) 1回
- 堀井俊伸：日本環境感染学会誌 (Japan) 1回

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	3件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

- 神戸俊夫（名古屋大学）：*Candida albicans*の感染症発症能力に関する解析
- 村松英彰（浜松赤十字病院）：静岡県におけるカンジダ血症の臨床的特徴の解析
- 志智大介（聖隷三方原病院）：静岡県におけるカンジダ血症の臨床的特徴の解析

(3) 学内共同研究

- 小出幸夫（理事）：抗結核ワクチンの開発
- 永田 年（基礎看護学）：抗結核ワクチンの開発
- 杉本光繁（第一内科学）：静岡県におけるカンジダ血症の臨床的特徴の解析

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 真菌の病原性に関連する新しいマーカーの同定

Candida albicans はヒト口腔内に常在し、カンジダ症の原因菌として最も高頻度に分離される種である。マイクロサテライト領域の反復配列に基づいた遺伝子型解析により、カンジダ症患者病変部（皮膚カンジダ症、膣カンジダ症、カンジダ血症）より分離した *C. albicans* の主要遺伝子型の分布がカンジダ非感染者口腔（常在部）に由来する株と異なることを明らかにした。さらに、

健常者口腔より分離した *C. albicans* と口腔カンジダ症患者患部に由来する *C. albicans* の遺伝子型分布を比較し、カンジダ症発症に関わる *C. albicans* の genotype の特徴を明らかにした。これらの成果に基づき、主要 genotype の *C. albicans* 株のカンジダ症発症能力を明らかにするための研究を行った。(神戸俊夫、堀井俊伸)

2. 静岡県におけるカンジダ血症の臨床的特徴の解析

カンジダ血症はいまだ死亡率の高い感染症である。これまで、カンジダ血症に関する臨床報告や統計解析が多くなされてきているが、未だ解決すべき問題点も残されている。そこで、入院患者におけるカンジダ血症の臨床的特徴を解析し、カンジダ血症のリスク因子、最適な診断・治療法および感染管理法を明らかにすることを目的とした多施設共同研究を開始した。(堀井俊伸、杉本光繁、村松英彰、志智大介)

3. レジオネラ菌の新規エフェクタータンパク質の同定

レジオネラ症の原因菌である *Legionella pneumophila* (レジオネラ菌) のエフェクタータンパク質の研究を行った。*L. pneumophila* は IV 型分泌装置を介して、宿主細胞内にエフェクタータンパク質を分泌する。これらのエフェクタータンパク質によって、*L. pneumophila* が含まれるファゴソームは小胞体様に改変されて、増殖ニッチが形成される。*L. pneumophila* ゲノム上の約 3100 遺伝子のうち、400 遺伝子以上がエフェクタータンパク質であることが明らかになっているが、その多くの機能は明らかになっていない。これらのエフェクタータンパク質の機能を明らかにするため、動物宿主細胞内で発現することが確認されているそれぞれのエフェクタータンパク質 275 遺伝子を HEK293 細胞内で発現させて免疫沈降を行い、エフェクタータンパク質に結合する宿主標的タンパク質を LC-MS/MS によって同定した。その結果、25 遺伝子以上の新規エフェクタータンパク質遺伝子を同定することができた。(瀬戸真太郎、堀井俊伸)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. インフルエンザ，とびっきり！しずおか，静岡朝日テレビ，平成 26 年 12 月 8 日